



まて がたな  
護り刀と  
ひとりね

一人寝の夜

Touken Ranbu Fanbook

三日月×鶴丸





鶴や

急ぎよ  
審神者殿の定期報告に  
随行することとなった

数日  
本丸を留守に  
するゆえ

これを  
貸しておこう



!?

君の御本体…

おいおい  
出かけるのに  
丸腰じゃあ  
物騒だろう

なに  
他にも大太刀が同行する  
俺はお上の覚えが良いから  
お飾りについてゆくだけだ



…そろそろで  
あろうか?

それは  
護り刀だ

帰城したら  
相手をして  
やるゆえ

……!

——三日月宗近は  
特殊な刀だ

刀には幾つか  
種類があり――

戦で使う実戦刀  
鑑賞する美術刀  
神社に奉納する御神刀

だが 三日月は  
怨念を鎮める  
破魔の刀――

戦でひとを  
斬ることは  
稀だが

ひとが  
ひとならざるモノに  
成ったとき  
その真価を発揮する

博物館などで  
いわくありげな刀剣と  
隣接して展示されるのは  
そのためだ

呪術用の剣とか

名前すらない  
ザオルデモー刀

もちろん撮影禁止

三日月宗近

御劔

そして そういう  
「いわくつき」の  
刀の代表格が  
俺だったりする

皇室にも稀に  
刀の展示依頼が  
あったりするが

宮内庁

はい？ 鶴丸国永？  
あ……  
厳しいですねアレは

歴史が旧いうえに  
お墓やら神社から  
度々暴かれたでしょう  
色々と悪いちゃった  
らしくてね

靈感のある人を見ると  
体調を崩したりねえ  
一般公開は危険かと……

「おさえ」の刀と  
一緒に展示して  
貰えるなら  
まだしもねえ

俺のせいじゃ  
ないんだがなあ

退屈だ……

かーん  
あなち！  
鶴……！  
何という  
姿に……！

そんなこんなで  
本丸で再会  
したときは

俺は結構  
濁っていた  
らしい

おいで  
陰の卦を  
吸うてやろう

おいで

？  
？

ん……っ

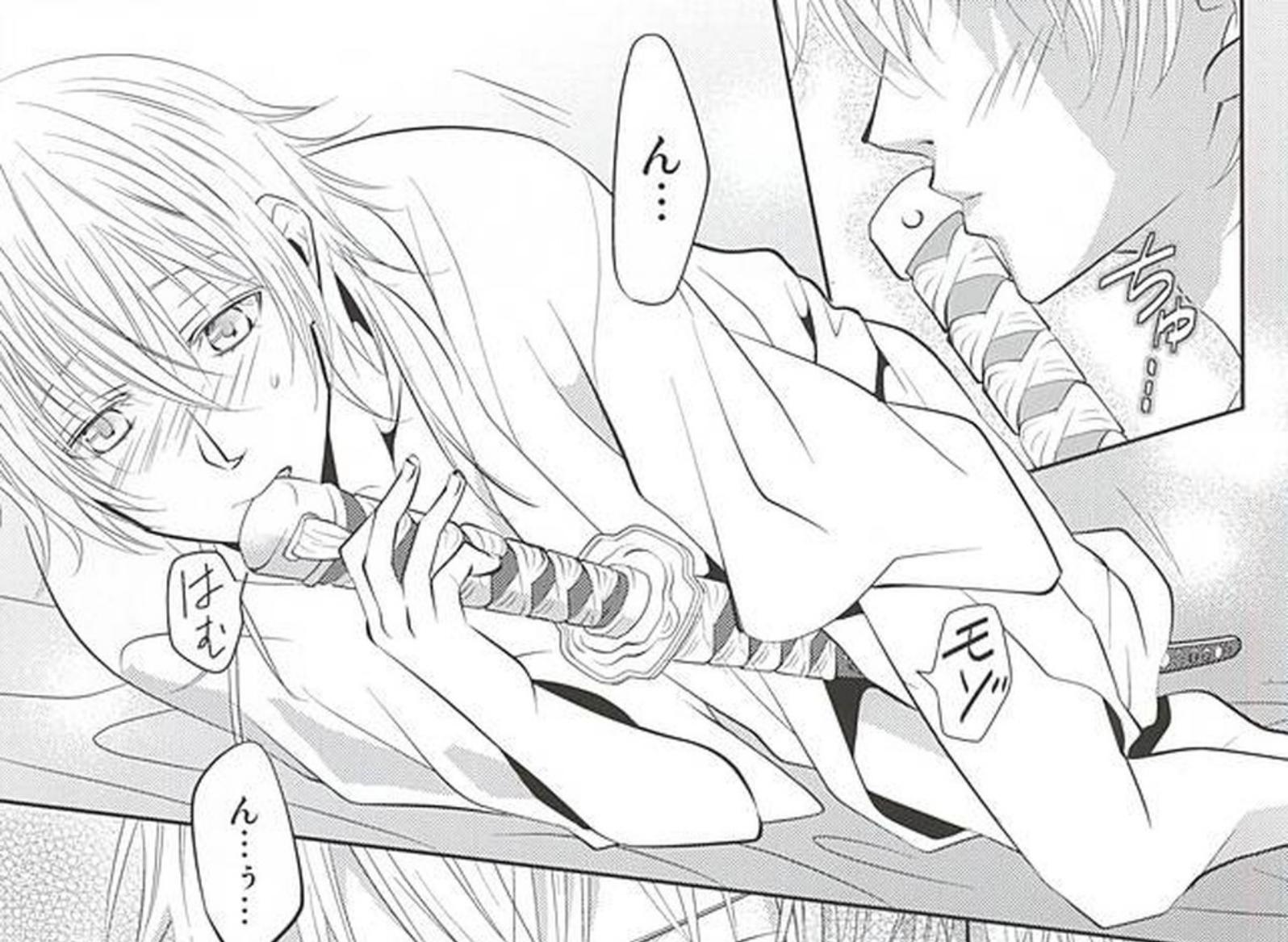
ん……っ

——以来  
三日月が俺の  
「おさえ」に  
なってくれた

ひとの世に  
降りて戦うと  
望まずとも  
怨念を集めて  
しまうので

定期的に  
被って  
くれている

しかしまあ  
御本体だけとは  
無防備な……



ん...

はむ

ん...う...

モジ

ちゅ...



あ...

ちゅむ

ちゅば

...三日月が  
帰ってくるまで  
我慢しようと  
思っていたが

こんな  
美しい君を  
前にしたら



あ...

ちゅば

コリ

ひし  
し

あ...





あ

や

一人では  
動かしづらからう  
手伝って進ぜよう

ハア

明朝に  
延期に  
なってるな

き…君…!?!  
もう出立した  
はずじゃ…!?!



それにしても  
随分と悦ばそう  
ではないか

ん?

あッ…!

あ…あ…



刀身と  
人型の俺と  
どちらに相手  
をして欲しい?

ふふ  
ず  
ず

ず  
ず

は…

そ…なの…

決まってる…

は…



両方だ

…貧乏者め

…いや  
俺が果報者か



あぁあッ  
あ

あいわかった  
覚悟するが  
よい

ズッ  
ズッ

あ

あ…



その後

二人の三日月に  
相手して貰った  
気分…

癖に  
なりそうで  
怖いぜ…

お祓いは済んだが  
新たな扉を  
開きそうな  
鶴丸であった

Touken Ranbu Fanbook #5

護り刀と一人寝の夜

三日月×鶴丸

Suite Ruby Presents

